

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 特集 東北地方太平洋沖地震
- 10 23年度 施政方針・教育行政方針
- 13 市の出来事から
- 14 23年度予算のあらまし
- 16 市子育て総合支援センター「こっころ」がオープン
- 18 パークヒル向山宅地分譲
市有地等分譲補助金
住宅リフォーム補助
- 19 在宅介護支援センター
- 20 狂犬病予防接種
- 21 図書館だより
- 22 保健日程
- 24 子そだて広場
わが家のアイドル
- 25 交通安全情報
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
子ども喜ぶ人気メニュー
- 26 キラリ人輝く
夢トーク
- 27 クラブ紹介
ぼんたのつぶやき
- 28 暮らしの情報
- 32 奥州遺産

〈今月の表紙〉



3月11日、突然私たちを襲った東北地方太平洋沖地震。三陸沖を震源として発生したこの地震は、マグニチュード9.0という観測史上最大規模のものでした。

写真は、JA江刺園芸センターへ向かう道路を撮影したもの。アスファルトで舗装された道路が、大地を揺るがすすさまじい力で引き裂かれていました。地震の詳しい状況は、4ページから始まる特集でお知らせします。

※4月7日発生の余震の影響で、本号とお知らせ版を合わせて発行します
※「まちの話題」「つながれ広かれNPOの輪」は休止します



すてきにポーズをきめた「一輪車クラブ・アルスノーバ」レッドシュガーズのメンバーと

華やかな衣装に身を包み、華麗な技に挑む一輪車クラブ・アルスノーバのメンバー。指導者の裕美子さんは、彼女らに厳しいまなざしを向ける。高校時代は器械体操に打ち込む体操少女だった。「クラスでは、キャンディーーズやピンク・レディーをよく踊っていた」と照れくさそうに青春時代を振り返る。高校卒業とともに上京。仕事をしながらバレエやジャズダンス、社交ダンスの教室へと通うダンス漬けの生活を送っていた。そんな日々も突然終わりを告げることになる。59年に家庭の事情からUターン。翌年に結婚し、三女の母となった。

一輪車に出会ったのは平成10年。娘のクラブ加入がきっかけだった。母として参加するつもりが、一輪車の魅力に引かれ、指導者への道を歩みだす。今では振り付けから衣装デザインまで手掛けるようになった。「スピード感と、スピンなどの技が芸術性を広げる」とその魅力を語る。17年から全国大会に連続出場を続けるアルスノーバ。技術面とメンタル面の両立に悩み「眠れない夜もあった」と苦笑い。その試行錯誤の日々が、一輪車競技の創成期から、現在のレベルにまで引き上げた。「アルスノーバ」は、「新しい技への挑戦」の意味を持つ。「実は私、一輪車に乗れないの。乗れる子が指導すれば、もっと技術が向上し、表現も豊かになる。それまでが自分の役目かな」と、裕美子さんは穏やかにほほ笑む。



7

より美しく、より華麗に 新たな表現への挑戦

岩渕 裕美子さん（50歳）
前沢区字北久保



いわぶち・ゆみこ◎昭和35年前沢区字北久保生まれ。主婦。高校卒業後、上京。59年Uターン。平成12年から、一輪車クラブ・アルスノーバ指導者。家族は夫、3女、ネコ3匹とイヌ1匹。